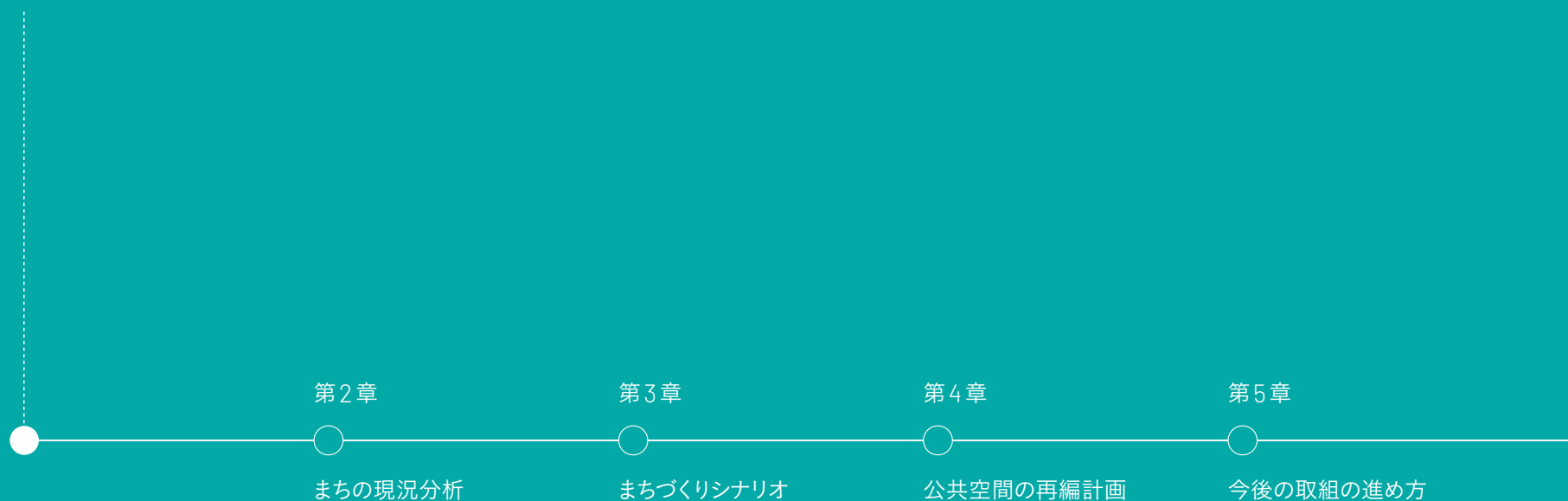


第1章 公共空間再編整備計画とは



1 背景

本市の中心市街地である沼津駅周辺においては、鉄道高架事業を始めとする沼津駅周辺総合整備事業が今後本格展開を迎えます。このため、これらの事業の進捗と併せて取り組むべきまちづくりの施策の方向性を示した「沼津市中心市街地まちづくり戦略」を令和2年3月に策定・公表し、沼津駅周辺を車中心からヒト中心の空間に再編し、ヒトが居心地良く過ごし、快適に回遊できる魅力的なまちづくりを行っていくことを示しました。

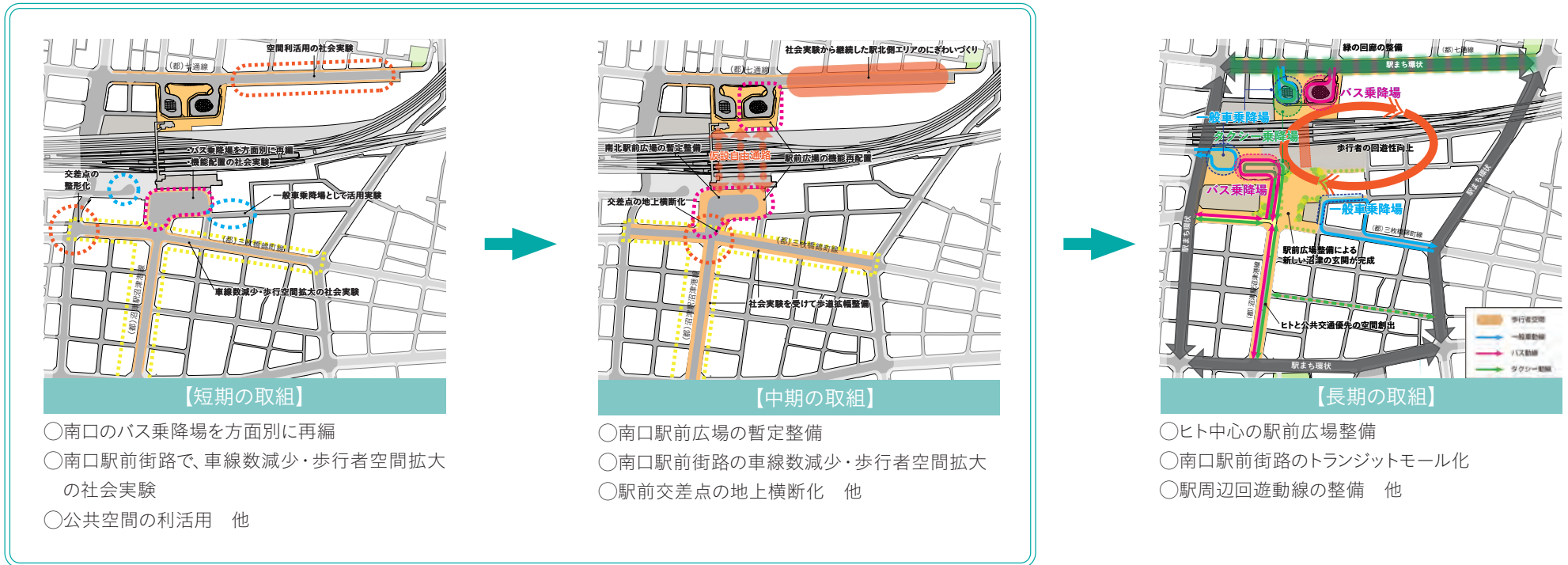
沼津駅周辺総合整備事業は完了までに長期間を要し、その効果は短期・中期・長期と段階的に現れることから、ヒト中心の空間創出に向けた都市空間や交通体系の見

直しについても、その方向性や目指す姿を市民・民間事業者、行政とで共有しながら、段階的かつ着実に推進していく必要があります。

時代やまちづくりの潮流としても、人口減少社会を受け、都市機能のコンパクト化を始め、車中心からヒト中心のまちづくりへの転換として、まちなかウォークラブル施策や道路空間の自由な利用を促進する制度等が創出されるとともに、新型コロナウイルス感染症を契機とした人々の生活や行動の変化、持続可能な開発目標(SDGs)、カーボンニュートラルへの対応など、環境との共生も意識したまちづくりが求められています。また、ヒト中心のスマートシティ

や自動運転等の技術革新など、将来における社会システムの変化なども見据えながら、本市にふさわしいまちづくりを進めていく必要があります。

本計画は、これらの背景を踏まえつつ、まずは中心市街地まちづくり戦略で示した「**中期(5~15年)**」の**まちの姿の実現**に向けて、公共空間の再編として取り組むべき事項や施策の方向性、進め方等を定め、これに基づくまちづくりの取組を加速化させることで、まちなかに変化やヒトの新たな動きを創り出し、まちの活性化につなげていくものです。



2 目的

ヒト中心の都市空間の実現によるまちの活性化

沼津駅周辺を車中心からヒト中心の空間に再編し、ヒトが居心地よく過ごすことのできる空間をまちなかに創出することで、生活の質・住みやすさの向上によるまちなか居住の促進を図るとともに、公民連携により拡大した歩行者空間等の利活用を推進することで、まちのにぎわいや経済活動の活性化を目指します。

持続可能で環境と共生したまちなかの実現

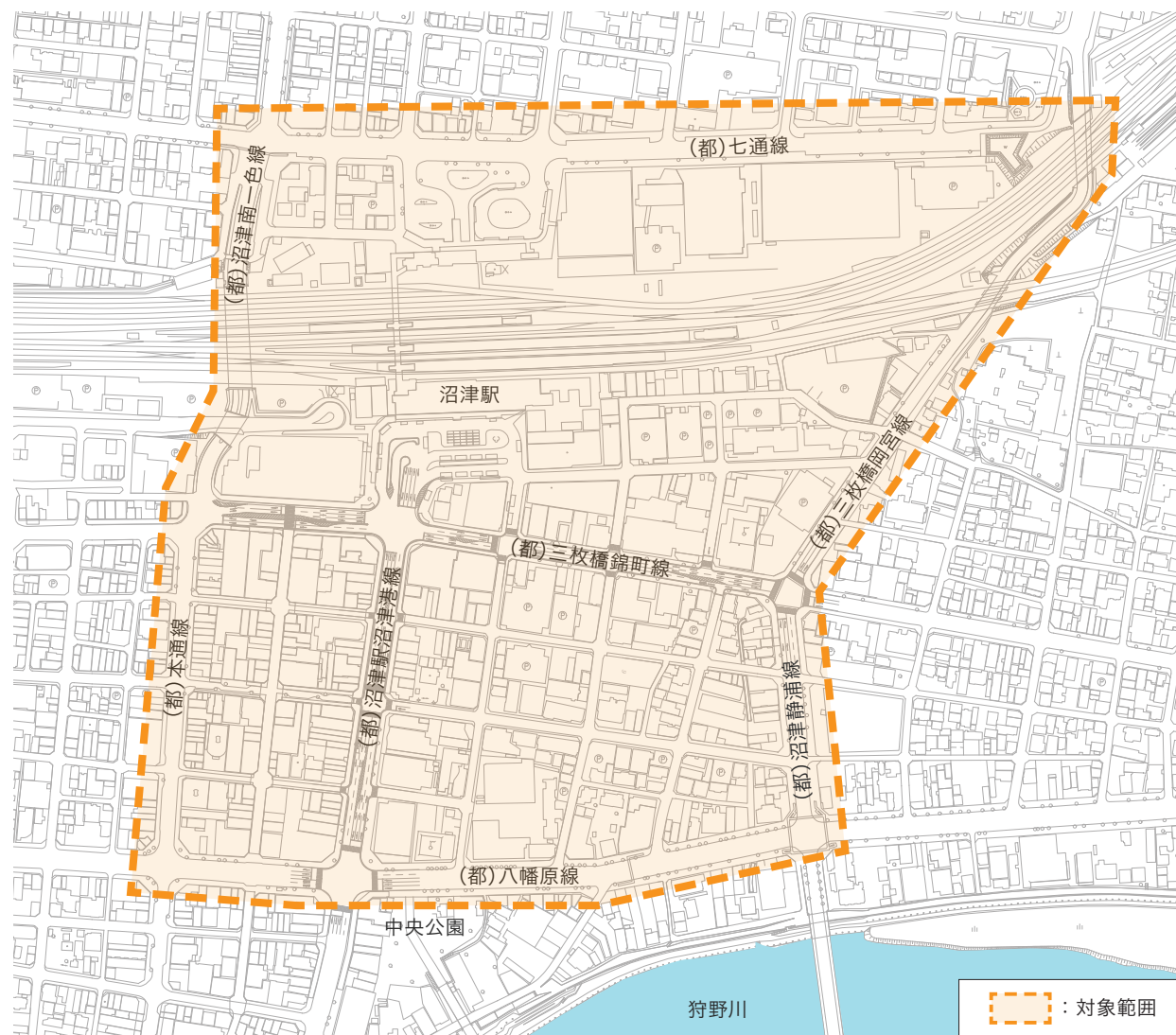
潤いと安らぎを与える緑化空間づくりなど、地球温暖化やヒートアイランドへの対応を意識した再編整備を行うとともに、脱炭素型まちづくりとして公共交通による移動を中心とした、ヒト中心で快適に歩いて暮らせる空間への転換を図ることで、コンパクトで持続可能な、環境に配慮したまちなかを実現します。

社会情勢の変化に対応した段階的なまちづくりの推進

本計画では、中期における公共空間の再編プロセスを明示し、段階的かつ着実な展開を図っていくための基本的な考え方を示しています。本計画の考え方をもとに、社会情勢の変化にも本市にふさわしい形を検討する中で柔軟に対応して、具体的な事業内容を検討し、社会実験等による検証も重ねながらまちづくりを進めていきます。

3 対象範囲

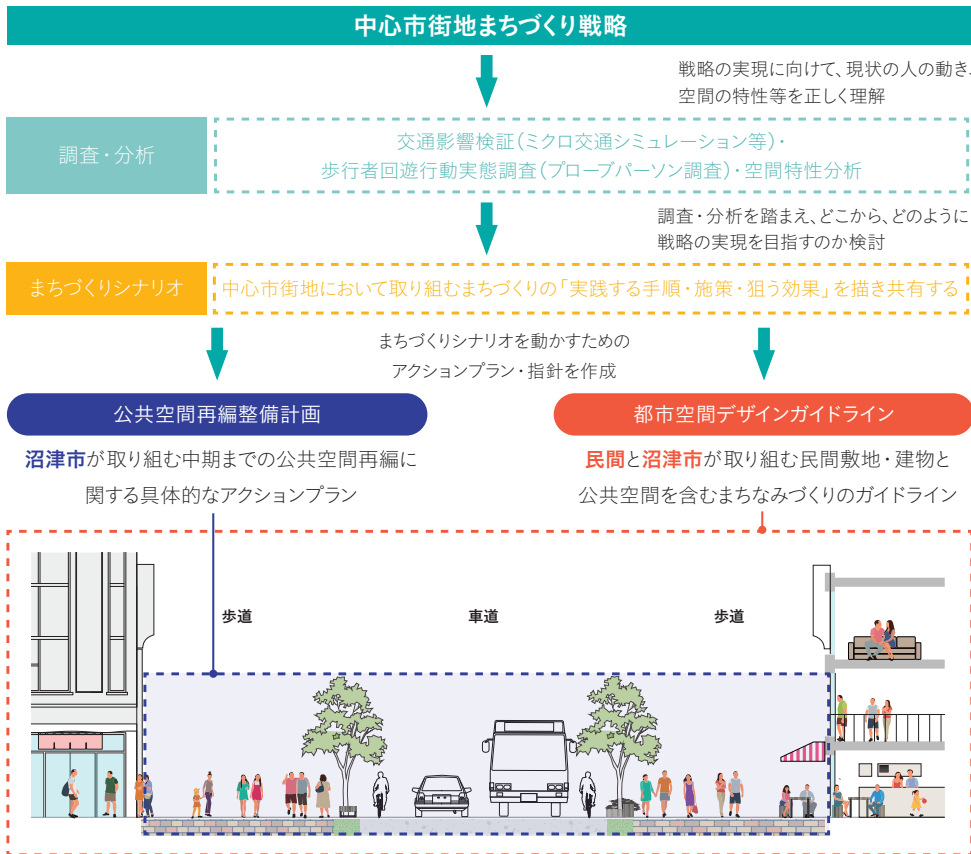
公共空間再編整備計画の対象範囲は、中心市街地まちづくり戦略で定めた「駅まち環状」内とします。



④ 中心市街地まちづくり戦略策定以降の取組

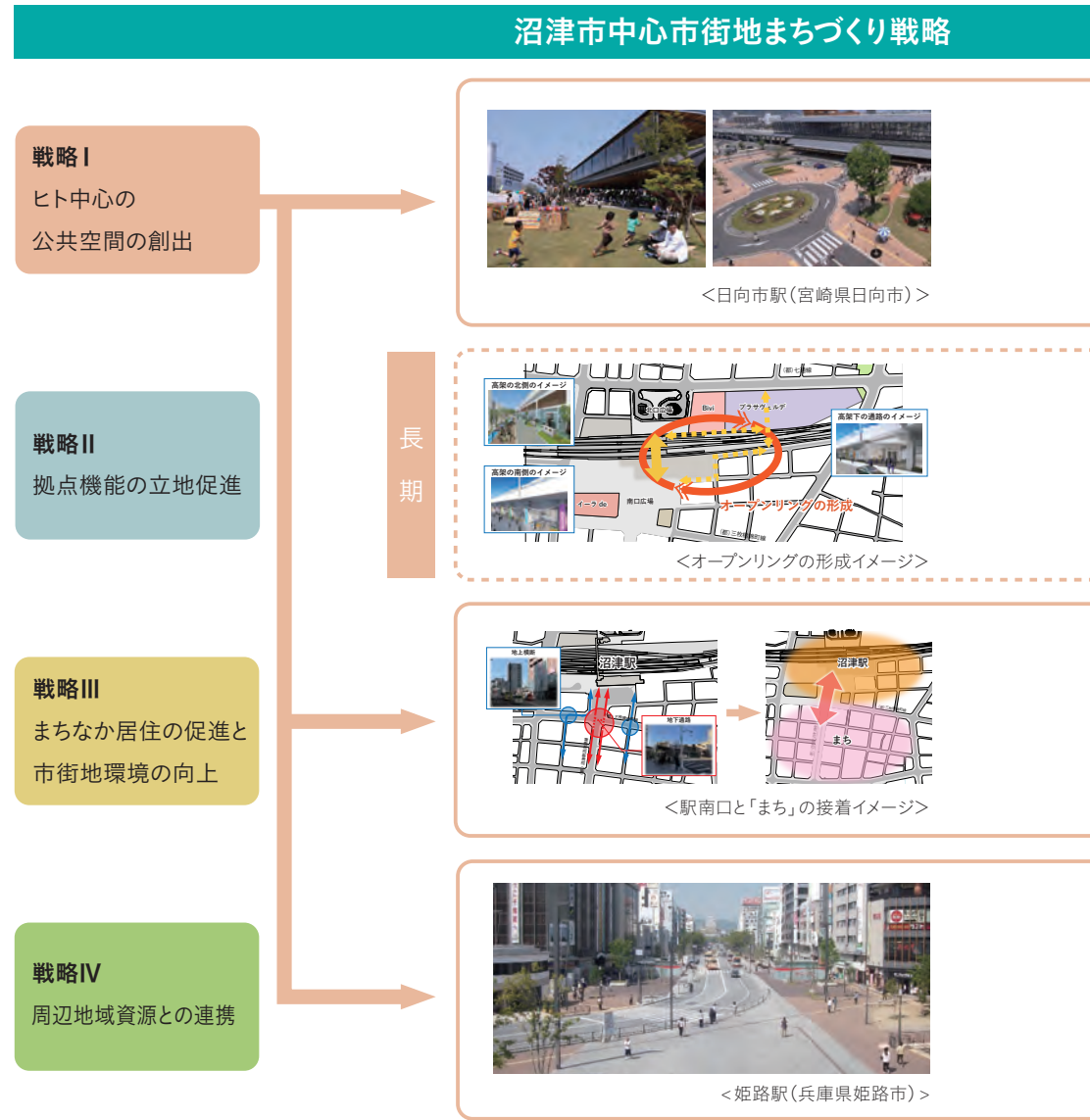
中心市街地まちづくり戦略策定後、戦略の実現に向けて、中期の整備を見据えた空間特性に関する分析や人の回遊行動を把握する調査(プローブパーソン調査)等を実施し、現況分析と将来のヒト中心のまちなかを想定したシミュレーションを実施しました。

そして、現況分析・シミュレーションの結果を踏まえ、中期のまちの姿の実現に向けたステップを可視化したまちづくりシナリオを共有し、まちなかをヒト中心へと転換させるために沼津市が中心となり整備等に取り組んでいく「**公共空間再編整備計画**」と、市民や民間事業者が主体となりつつ、公民連携により統一的なデザインのもとで取組を進めていくための指針となる「**都市空間デザインガイドライン**」を策定しました。



⑤ 戦略I「ヒト中心の公共空間の創出」の実現に向けて

中心市街地まちづくり戦略に定める4つの戦略のうち、戦略I「ヒト中心の公共空間の創出」の実現に向けて、**駅前広場・駅前街路・地区交通体系**の3つを再編項目として位置付け、これらに関連した取組を進めていきます。



方策1: 駅前広場の歩行者広場化 - 駅前を真の広場に-

- 駅前広場を、車中心の空間から、歩行者のための広場へと再編します。
- 再編にあたっては、市民や来訪者が居心地よく滞留し、快適に交流できる「都市の広場」として再整備します。
- 駅前広場と隣接する建物や街区との連続性を重視し、広場と周辺の「まち」が一体となった公共空間形成を図ります。
- まちなかの貴重なオープンスペースとなるため、災害時の救援活動拠点や一時的な避難場所等としての活用も踏まえて整備を図ります。

方策2: 駅周辺回遊動線の整備 - 「オープンリング」の形成 -

- 南北市街地の一体化に伴い、高架下には多くの南北動線が整備されるため、集客施設であるプラサヴェルデと、その南側の新たな街区の連続性を確保するとともに、これらと南北駅前広場とを東西に接続することにより、「オープンリング」として駅周辺の有機的な歩行者回遊動線を形成します。

方策3: 駅アクセス街路の再編 - 歩行者空間の広がりによる駅と「まち」の接着 -

- 南口駅前広場へのアクセス街路((都)三枚橋錦町線・沼津駅沼津港線)の車線数を減らし、歩行者・自転車のための空間の充実を図ります。加えて、可能な区間について、「トランジットモール」化や「フルモール」化を図ります。
- (都)七通線について、将来(都)三枚橋岡宮線に接続されるまでの間、市街地の活性化を図るための長期暫定的な空間活用方策を検討します。

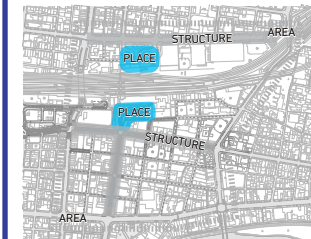
方策4: 地区交通体系の再編 - ヒト中心の空間再編のために-

- 方策1~3によるヒト中心の公共空間再編を実現するため、駅まち環状の整備を契機に、駅周辺における交通流の秩序と、駅前の自動車交通負荷の軽減を図ります。
- 一般車は、駅やその周辺への来訪を目的とせず、単に通過するだけの「通過交通」と、駅周辺への来訪を目的とする「アクセス交通」について、それぞれの特性を踏まえた交通体系の再編を図ります。
- 公共交通は、南北駅前広場全体で乗降場等の最適な配置を検討します。

戦略Ⅰの実現に向けた方策を進めていくため、3つの再編項目を位置付け

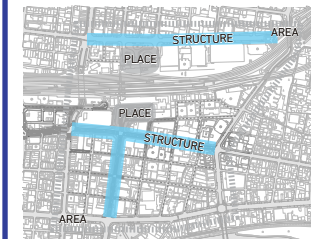
公共空間再編整備計画

駅前広場 居場所(公共空間・広場)の再編



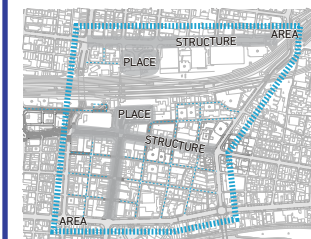
駅周辺やまちなかに“場”を生み出し、人々の集まる拠点をつくります。

駅前街路 骨格(道路)の再編



骨格となる駅前街路の構成を変化させ、ヒトの行き来や活動を物理的にしやすくします。

地区交通体系 交通手段やヒトの回遊の再編



交通手段ごとに通る道路を整理し、歩行者優先に配慮することで、ヒトの回遊を生み出します。

